

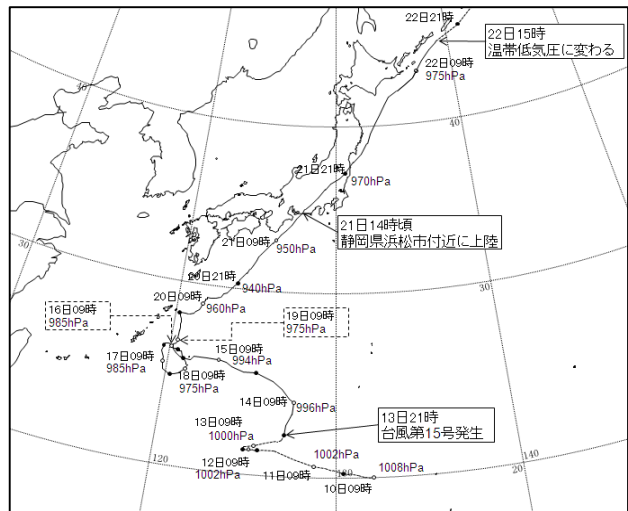
平成23年9月 台風15号における高萩工事事務所管内ダムの効果について

○気象状況

日本の南海上で発生した台風第15号は、北に進んだ後西に向きを変え、南大東島の西海上を反時計回りに円を描くようにゆっくり動いた後、奄美群島の東海上を北東に進み、速度を速めつつ四国の南海上から紀伊半島に接近した後、21日14時頃に静岡県浜松市付近に上陸し、強い勢力を保ったまま東海地方から関東地方、そして東北地方を北東に進んだ。

この台風により、高萩工事事務所管内でも広い範囲で大雨となった。

【台風15号の経路】



○管内ダムの降雨及び洪水調節概要

高萩工事事務所管内においても、総雨量が200mmを超える降雨があり、管内の水沼ダム、花貫ダム、十王ダム、小山ダムの4ダムにおいても、ダムに流れ込む水を貯めて下流の増水を緩和する洪水の調節を行いました。

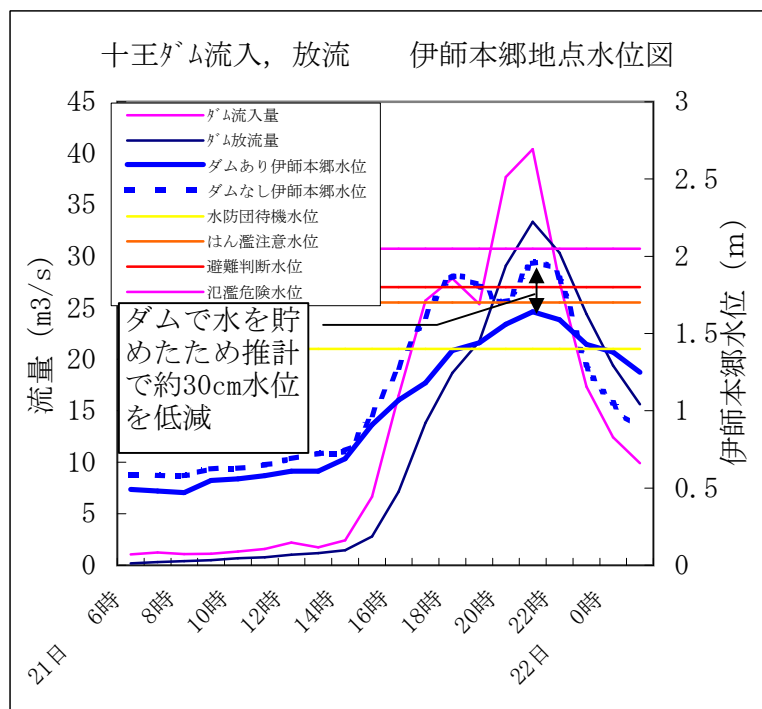
ダム名	雨量			ダムでの洪水調節			
	観測局	総雨量 (mm)	時間最大 (mm/時)	最大流入量 (m3/秒) ①	左記時ダム放流量 (m3/秒) ②	ダム調整量 (m3/秒) ①-②=③	調節率 (%) ③/①
水沼ダム	花園	282	45	98.53	69.93	28.60	29%
花貫ダム	下大能	264	45	82.93	69.60	13.33	16%
十王ダム	日向	246	32	42.7	32.95	9.75	23%
小山ダム	横川	185※	31	118.28	50.54	67.74	57%

※は期間内に欠測があります。

○具体的なダムの効果

例えば十王ダムにおいては、約19万m3の水をダムに貯めた。これにより、伊師本郷地点の水位を推計で約30cm低減することが出来て、最高水位が1.64mとなり、避難判断水位(1.80m)を超えることを回避出来た。

なお、他の3つのダムでも同様にダムに水を貯めてダムの下流河川の水位を低減させた。



※ダムなし伊師本郷水位は、推計値